

工房 夢来夢来

む く む く

かわらばん

工房夢来夢来は狭山市
障害者団体連絡会の助成
金によって運営する在宅
障害者のディサービスス
ポットです
月・水・金曜日開所

第 20 号 平成14年 11月発行
狭山市狭山台4-25 狭山台南小学校内
TEL&FAX 042-956-5364
発行責任者 吉田幸子
E-mail id3a-nkt@asahi-net.or.jp
ホームページアドレス
<http://www.ne.jp/asahi/muku/muku/>

盲導犬 福井 カレン

暑い夏も終わり、周りの木々も色付き、過ごしやすい季節になりました。当所ではバザーに向けての作品に活気をましております。ところで今年の4月より、スタッフにも加わっていただきました藤重さんが、3年ぐらい前から体調を崩し始め、入退院を繰り返しておりましたが、残念なことに8月13日に他界されました。これからと思っておりましたのに残念です。謹んでお悔やみを申し上げます。

トライ

山川早苗

最近、街でよく見かける「車椅子マーク」のついた路線バス。皆さんご存じでしたか？。電動車椅子の私は前から気になっていました。「あれって乗れるのかな？、どうやって乗るのかな」などなど……

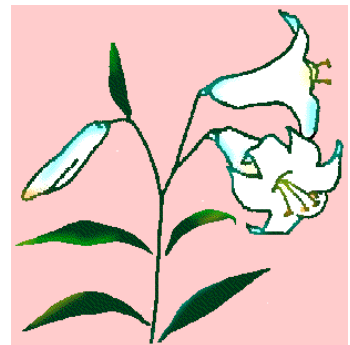
もし自由にバスに乗ることができたなら車椅子利用者の世界はずっと広がる、そう思えました。誰かに聞いても当事者でない為うっかり見過ごして分らないのです。ボランティアを交えて話し合ったとき、車椅子マークがあるのだから、多分乗せてもらえるであろう、まずはトライしてみる事が先決だという結論になりました。が、バス停に立つ勇気はなかなか出なかったある日。

それは七月十九日。とても暑い日でした。かねてから入院中の藤重さんの容態があまり良くないと聞き、お見舞いに行こうと思いました。夢来夢来から入間川病院まで電動で行こうとした私に塩田さんが、「山川さん、いいチャンスだからバスに乗ってみたら。野口さんが乗ったら大丈夫だって言ってたよ。」と言いました。居合わせたボランティアの国重さんもバス停まで一緒に行って乗せてくれ、バイクで先回りして病院で待っていてくれると言ってくださいました。

バス停で待つことしばし、バスが来ました。運転手さんをお願いすると降りてきて中央の乗車口の所からスロープを出して下さり楽々バスの中に入ることが出来ました。乗ったところの座席二つを折りたたみ、車椅子の席を作ってくれ、タイヤ

にストッパーを置きシートベルトで固定して下さいました。さあ、小さな冒険の始まりです。バスは南回りというのか「セキチュウ」から「中央病院」の方を通り目的地の入間川病院へは十五分程の旅だったと思います。バス停にはバイクを飛ばした国重さんが待っていてくれました。降りる時は少し勾配がきつかったですが無事着地することが出来ました。発車するバスを見送ると、最後部座席から編み物の教え子だった綾栄ちゃんが手を振っていました。偶然の束の間の再会でした。

それから国重さんと後から来た塩田さんの三人で藤重さんを見舞いました。藤重さんの具合は思った以上に悪く、ベッドに横たわっていました。私はここまでバスで来れたことを報告しました。前から車椅子の移送について心配してくれていたから。彼は「夢来夢来でやる事がまだまだ沢山ある。」そう言いました。その言葉とは裏腹に病魔は彼の意識を遠い世界へ誘いつつあるようでした。目を閉じた藤重さんを残し私達はそっと病室を出ました。「又来るね。」そう言いましたが結局それが藤重さんとの一期のわかれとなってしまいました。



病院を出て思いました。またバスに乗り家まで帰ろうと。やるべきことはやればと。ここから駅に行ったらバスに乗ると言ったら、国重さんと塩田さんが心配して駅まで付いてきてくれました。せっかくだからと三人でドトールでお茶をし、とりとめのない話の花が咲き、気が付けば夕闇が迫っていました。お世話になったお二人に感謝し、再びバスに乗りました。

帰途、私の中で新しい試みに挑戦したという昂揚と若すぎる終焉を迎えた人との邂逅、二つの思いが錯綜していました。

こうして私のバス試乗初体験は無事終わりました。西武バスの運転手さん達はとても親切でした。

顧みて思うのは、この面倒な車椅子の乗客を他の乗客の皆さんはどう感じたか知りたいということです。そして他の車椅子の皆さんも、是非路線バスに乗ってみませんか。

追記 入院していた藤重さんが今年8月、お亡くなりになりました。狭山台南小学校の子ども達が、藤重さんの家族への手紙を書いて下さいましたので、ご紹介します。

2年前、ぼくたちは4年生でした。初めて台南ムーブで夢来夢来さんに行った時、藤重さんは、ぼくたちのことが見えないのに、やさしく、しゃべってくれました。ぼくは、藤重さんは、とてもすごいと思ったことが二つあります。一つは、どんな顔かもわからない人とニコニコしゃべれることです。もう一つはパソコンが、できることです。ぼくは夢来夢来さんとの、こうりゅうじゅぎょうをして一つ学びました。それは、みんな、しょうがいをもっていても何でもできると、言うことです。

だから、ぼくは、もっと、がんばりたいです。もし、しょうがいを、うけたとしても、藤重さんのようになりたいです。お世話になりました。さようなら。 6年 片岡力也（原文のまま）

盲導犬カレンとの出会い

盲導犬と一緒に生活をする中で、「もう一度外出の自由と喜びを、味わってみたい」という長い間ずっと暖め続けてきた思いが、現実のこととなって道が開かれ、4週間の共同訓練期間は、毎日が新しい発見の連続で、夢見るように、アツという間の出来事だったように思えてなりません。

日常生活から抜け出して、盲導犬達に囲まれて過ごせたことは、とても新鮮な刺激で印象深く、貴重な人生経験となりました。

盲導犬一頭に、どれほど多くの人達の御苦労と思いがこめられているかを思いつつ、身の引き締まる思いで訓練センターに向かい、静かな気持ちで対面の時を待ちました。ラブラドルレトリバー種でイエロー色の二才の女の子カレンと出会った時、とても初対面とは思えないほどの人なつこさで、「なでてよ なでてよ」というように大きくしっぽを振りつつ、お腹を見せながら無条件に心を許して甘える様子は、まるでずっと以前から私と出会うことがわかっていたかのような、とてもなつかしい気持ちと、愛おしさで胸が一杯になりました。カレンと出会ったあの日・あの時・あの瞬間の熱い感動の思い出は私の心の財産として、

いつまでも大切に記憶され決して忘れることはないでしょう。ハーネスを付けて歩くときのカレンは、「私に任せてよ」とでも言うように力強い足どりで頼もしい限りです。風をきって歩いた時・目的地まで無事たどり着けた時の達成感、奇跡にも似たたとえようもないよろこびであり感動です。

毎日色々な状況に遭遇しながらも、カレンと一緒に乗り越えることで、お互いの信頼関係や絆も、より深まるように思います。カレンというパートナーと寄り添って歩けることに感謝し、日々のささやかなことの中に幸福感をかみしめつつ、もっともっとところを一つに通わせ合い、思い出を沢山心に刻み、心の豊かさを大切に、カレンと私との歴史を、積み上げていきたいと心から願っています。

盲導犬の存在が皆さんに正しく理解されて、快く社会に受け入れて頂けるような働き掛けも、今後カレンと二人で努力してゆけたらと考えています。

寄贈ありがとうございました

阿部	様	ネクタイ
鳥井寝具店	様	端切れ
信沢邦子	様	布
渡辺正子	様	皮・布
武田株式会社	様	端切れ
田中けい子	様	帯・布・着物の反り物
佐藤わか子	様	ネクタイ
落合	様	ネクタイ・切手
中村ちか子	様	ネクタイ
川崎	様	ネクタイ
神田	様	布地

編集後記

だいぶ涼しくなりましたが、皆様いかがお過ごしですか？

今年は新しい仲間も加わり、より一層にぎやかな夢来夢来となりました。

くれぐれも、お身体に気をつけてお過ごし下さい。

